

福祉の現場で働く人たちに、「うちの事業所はココが熱い！」魅力ややりがいインタビュー！

関わりを重ね思いが通じ合う喜び

デイセンターまなびや 郡 高之さん

スタッフの層が厚く
支え学び合える職場

雑誌編集や塾講師などを経て全くゼロから福祉の仕事に飛び込んだという郡さん。「それまで自分が漠然と持っていた真面目で暗いという福祉のイメージを覆す、実に明るくオープンな職場で、分からないことはすぐ聞けるざっくばらんなムードがありがたかったです。重度障害の方だからと身構えることなく、自然体でメンバーさんと関係を築くことができたのも、さまざまな専門性を持つ方や

経験の長い方など、多くの先輩スタッフのバックアップがあったこそだったと思います。ご家族の方との関わり方では、自分の塾講師の経験が少しは役立っているかもしれないですね。言葉でのコミュニケーションが難しい方でも、関わりを重ねる中でその方ならではの表現の仕方や感情の動きが見えてきたり、気持ちを通じ合った時のなんともいえない感動が、やりがいでもあります。日々試行錯誤ですが、メンバーそれぞれの個性に寄り添い、笑顔を引き出せる関わりをしていきたいです」

弱みより強みにフォーカス
視野が広がる支援を

前職は役者さんという目崎さん。「障害をテーマにした芝居を演じるにあたり、役作りの勉強になればと考えたのがこの仕事に就いたきっかけ。いつの間にかはまってしまい早10年、今や天職と思っています。うちはいい意味でオンオフをあまりはつきりさせず、その方のやりたいことや意思を第一に考える事業所。就労移行支援とB型作業所の複合型なので、今の状態に合わせた仕事の仕方が選べるのも強みです。若いメンバーが多いこともあり、アニメ

「いかに楽しく通ってもらうか」を追求

だいち調布第3事業所

目崎 祐介さん

やゲームなどの共通の趣味の雑談などを通し、楽しく通える居場所という側面を大切にしています。ひきこもりや人間関係でつまづいた経験などから自己評価が低くなっている方も多いのですが、弱みにフォーカスせず「劣等感になっっている部分も見方を変えれば強みになる」「頑張りすぎなくていい」「いろんな人がいてよくて誰しも長所も短所もある」など視野が広がり、気持ちがあんなような関わりを心がけています」



一人一人の状態に合わせて理学療法士、作業療法士が立てた計画に従いリハビリを行います。



デイセンターまなびや

調布市社会福祉事業団が運営する身体障害と知的障害を併せもつ人の通所施設。一人一人の状態に合わせて支援や介助、日中活動、機能訓練や入浴サービスを実施。

調布市西町290-47
042-442-9552



メンバーのモチベーションにつながるよう内容も工夫。この日の作業はゲーム機の分解修理。



だいち調布第3事業所

特定非営利活動法人だいちが運営する就労継続支援B型と就労移行支援の多機能型事業所。「その人らしくどう生きるか」をテーマに様々な活動を提供。

調布市東つつじヶ丘2-27-4 新井ビル201
03-5315-5981



調布市作業所等連絡会に所属する福祉事業所では、ボランティアや職員の募集を行っている施設もあります。詳細は各事業所にお問い合わせください(本誌裏表紙に一覧)

みんなにやさしいまち ちょうふ

「障害のある人が利用しやすい」場所は誰にとってもやさしい場所。障害がある人に配慮がある施設やお店をシリーズで紹介しします



田中裕美さん(右)と松井君子さん(左)。

調布をはじめ全国10カ力以上の
作業所に仕事を発注

明治38年に日本橋で創業、昭和39年染地に移転して60年という六和精工は、調布のほか茨城県にも工場を持つ、金属プレス加工の老舗企業です。調布をはじめ全国10カ力以上の福祉作業所に、主力商品である靴用金具などの組立作業を発注することで、作業所の工賃向上に長年多大な貢献をしている会社でもあります。事務の田中裕美さん、社歴30年以上と言うベテラン社員松井君子さんにお話を伺いました。

「地域で働く選択肢が少ない方、障害のある方などを積極的に雇用したり、仕事ををお願いしているのは、先代代の社長から続くわが社の方針。こちらが忙しい時だけというのではなく、継続してコンスタントにお願いすることが大切と考えています。また、地域の子育て中のお母さんたちにはパートとして活躍してもらっており、お子さんの体調不良や学校行事のある時にはお休みが取れるよう配慮もしています」(松井さん)「作業所の皆さんは、単調な作業も確実に丁寧。職員さんが仕上がりにまでしっかり確認してくれるので、安心してお願いできます。発注先の作業所さんが得意な作業にできるだけ合わせたお仕事を切り出してお願いしています」(田中さん)

安定、継続した発注で 作業所の工賃向上に貢献

染地 六和精工株式会社



福祉作業所への発注作業の一例、ヘルメットの顎ひも留め具の組立。



組立の様子。コロナ禍でも途切れず発注できるように努めたそう。



パートの皆さん。子育て中でも働きやすい環境からは人を大切にする会社の姿勢が伝わります。



六和精工株式会社

東京都調布市染地2-29-6
042-484-1437

Topics

新規加入事業所紹介

NPO法人
青少年の居場所 Kiitos
障害者生活訓練事業所
Porta(ポルタ)

調布市菊野台1-52-4
三高家ビル2-C号室
042-444-6254

災害時の障害児・者支援のために「ちょうふ災害福祉ネットワーク」発足

大規模災害時に福祉事業所間で連携、障害児・者の支援を目的とした「ちょうふ災害福祉ネットワーク」が、令和5年7月28日の設立総会を経て発足しました。令和6年3月現在、調布市福祉作業所等連絡会に属する事業所を中心に29団体が加盟しています。

連携は、参加事業所それぞれがスマートフォンアプリに情報を投稿することで、全加盟団体が相互に共有できる仕組みを使用します。調布市もメンバーに入っているため、災害時に必要な避難所などの情報も随時受け取ることが可能。参加事業者は相互に協力し合いながら障害児・者の避難状況を共有したり、被災後の協力(人的支援、備品の融通等)を行うなど、多様な支援につなげていく考えです。

令和5年度には、台風等による水害を想定した情報共有の訓練、発災時に福祉避難所となる施設にある備蓄品の見学などを実施。ゆくゆくは震災時にも対応できるよう、参加事業者による協議や合同訓練を重ねていく予定です。そして今後はさらに近隣地域住民や教育機関などとも連携し、ネットワークを広げていきたいと考えています。